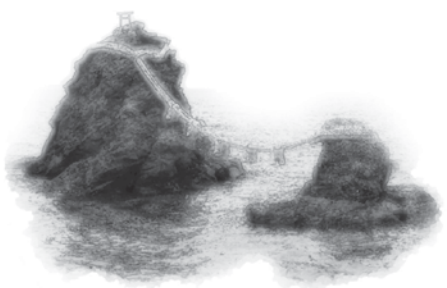




季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第二十五号〕

冬至 とうじ  
十二月二十二日



## 夫婦岩の注連縄張

今年も冬至を迎える頃となりました。毎年、宇治橋の鳥居のちようど上から昇る朝日を拝みにいかれる方も多いと聞きます。冬至の朝日はすっかり伊勢の年中行事となりました。

この日、二見浦では、夫婦岩の注連縄張神事が行われます。二つの岩を結ぶ注連縄は五月、九月と年末の十二月の年三回、二見興玉神社の氏子たちの奉仕により張り替えられるのです。注連縄は、長さ三十五M、太さが十cmのものを五本使います。

注連縄を作るのも神社の氏子たちです。調製は一日がかり。今回の分は十一月に地元江地区の人たち三十人ほどで作られました。場所は江地区コミュニケーショセンター前の広場です。この日は国道から地区へ入る道は通行禁止。「夫婦岩のしめなわ作りのため通行禁止」と記された専用看板がお目見えします。

まずはワラの束を「つちのこ」という木の棒で打ち、柔らかくします。地元では夫婦岩の注連縄調製を「しめ打ち」というのも、それだけこの作業が大変だからでしょうか。そして、水をかけて柔らかくしたワラの束をつないで、縄に縋いでいきます。三つの束を一本の綱にして、それを三本で縋いで太い注連縄にしているのです。出来あがった注連縄はヘビがとぐるを巻くように巻かれ、保管されます。去年と今年はお木曳行事もあったので、地区の皆さんの息もびったり。固く結ばれた注連縄となったことでしょう。

内宮前も二十五日過ぎから、今年一年の無事を感謝するお礼参りの人々の姿が見られ、年の瀬が押し寄せてきます。

文 千種清美

